

令和3年度小諸市総合教育会議議事録（概要）

日時：令和4年3月15日（火）午後4時00分から午後5時30分

場所：小諸市役所3階第2会議室

出席者：小諸市長 小泉 俊博（小泉市長）

小諸市教育委員会 教育長	山下 千鶴子（山下教育長）
教育長職務代理者	矢嶋 真（矢嶋職務代理）
教育委員	塩川 秀忠（塩川委員）
教育委員	柳澤 由美子（柳澤委員）
教育委員	田中 隆之（田中委員）

進行：総務部長（議事までの間）、市長（議事）

事務局：教育次長、学校教育課長、文化財・生涯学習課長、スポーツ課長、人権同和教育課長、企画課長、教育総務係長、学校教育係長、子ども育成係長、行政経営係長

内容

1. 開会

（事務局）

2. あいさつ

（小泉市長）

皆さんこんにちは。教育委員の皆様方におかれましては、教育委員会の会議から引き続き大変お疲れのところでございますが、年に1回の連絡教育会議を開催いたしますので、よろしく願いいたします。2020年からのコロナ禍において、大変厳しい状況が続いています。直近ですと、子供たちの感染が増え、小諸市内で今日は16人ということであります。やはり小学校、保育園、幼稚園を中心に家庭内感染が広がっており、一部学校では学校閉鎖がありました。ワクチンの接種も実施していますが、なかなか感染対策というところまではいかない状況であります。また、先月からウクライナに対するロシアの侵攻ということで、大人はもちろんですが、子供達も連日の報道を見るにつけ、心を痛めているかと思えます。私たちができることが何なのかということを変えて考え、日本の状況であったらどうなのだろうと論議し、国家に対する考え方を考え直す機会かと思えます。コロナ禍、また、ウクライナ侵攻についても、社会に対する考え方、自分の存在意義、それから社会の仕組みなど、様々なことを考え直すとともに、社会の仕組み自体が大きく変わってきている時代であると思っています。そういう中においても、総合教育会議というのは、小諸市で課題になっている学校の統廃合の問題やそのほかの議題についても触れながら、本市における教育観に関する事項について、教育委員の皆さんと私が意見交換することで、それに関して教育

委員会としても、調整を図ることを目的としているということでもあります。それぞれが意見を交わしながら、小諸市の教員・教育というのは社会の根幹だと私は思っていますので、お互いの理解とともに意見を交わすことによって、小諸市の教育がまたより良くなるように、本日の会議は短い時間ではありますが、よろしくお願ひしたいと思います。なお、教育委員の皆さんと、私と、それからまた事務局の事務の調整を図るということを目的としておりますので、ぜひ忌憚のないご意見を交わして、いい形で会議を進められればと思います。

3. 議事

(1) 目指す新校のあり方について

(小泉市長)

まず事務局から、今の進捗状況等説明をいただいた後、また私の方から、先ほども申し上げた教育観、理想像についてお話をさせていただきます。事務局からご説明をお願いします。

(事務局)

【資料「小諸市学校再編基本構想」に沿って説明】

(小泉市長)

今後、パブリックコメントを実施し、その意見をいかに反映できるかということとあわせて、ハード面の問題と内容面の問題など、教育委員の皆さんのご意見をいただいていくことになるかと思ひます。それでは、私からは、資料1私の教育観について、ご説明します。教育の目標っていうのは結局、心豊かで自ら考えて行動できる力を持った人を育成すること、これに尽きるのではないかと私は思ひています。この背景として、行政も考えていくということの1つとして、少子高齢化人口減少社会であり、それを構成する一人一人の市民がいかに心豊かで、自分で考えて自分で行動する人が1人でも多くいてほしい。なぜかという、その人の人生にとって、よりよい人生を送ることができるから、そのためにも教育はベースになってくる部分で、必要だと思ひています。社会を見たとき、市民の一人一人が低投票率であります。期日前投票は非常に投票率が高いのですが、実際トータルしてみると、それほど投票率が高くありません。その構成員である市民が自ら判断をしていく、民主主義の根幹になる投票というものに対する意識づけが、この教育に関わってくるのではないかと思ひます。それから一番強く意識しているのは、小諸市が長らく低迷してきたことの一つの要因として、時代のニーズなどいろいろな要素があります。市民の皆さんに振り返ってもらいたいと思うのが、隣の芝生が青く見えるように、どうしても他市との比較において他の町のいいところだけが目に入って、自分のところの町のいいものを見るという

ことは中々なされてこなかったのかと思っています。小諸は、私が言うまでもなく色々なお宝があります。それを一つ一つ磨くことは大変重要だと思っていますし、小諸には何もないからという、あえて頑なに目を閉ざす自虐的な表現も中にはなされたこともあったと思います。それを誰かのせい、人任せにしていなかっただけか考えていました。その中で自己決定をしていくということが構成員として必要ではないかと思っています。教育のあり方など、そういったものの重要性はすごく増すのではないかと、市長になった6年前から思っています。まず、教育とは自然・歴史・文化と親しんだり、愛したり、感動できたり、誇りを持ったりという素直な心の育成が必要でしょうし、自分の郷土を愛するということ、これがすごく大事ではないか、その人の心を豊かにするのではないかと思っています。それから人権にも関わることと思いますが、他人を思いやることができ、心豊かでないとなかなかこういう気持ちになれませんし、それから自ら考え行動でき、他人のせいにしない、自分で考えて行動することは責任が伴いますので、こういう自覚を持った人たちを育成していくことが教育の根幹であると思っています。このシビックプライド（行動を含む）という記載をしたのはそういう意味であり、自分で考えて行動することは自己肯定感、自分に自信がある程度なければできませんので、こういうことも一緒に教育として育てていくことが必要だと思っています。この目指すべき教育を実際に実現していくためのヒントとして、藤原正彦先生という方が書いた著書ですが、資料2について、国家という祖国とは国語で、国家という言葉が国民、という言葉が出てくるのですが、国家というのを市、また国民というのを市民に置き換えてもらえればと思います。日本は非常に再生が必要な状況にありますということが述べられていて、国家の体質は国民一人一人の体質の集積であり、一人一人の体質は教育によって形づけられるという言葉があります。小諸市の教育大綱、小林前教育長と私でこもろ未来プロジェクト教育編を作りましたが、その中に実はこの言葉が盛り込まれています。そういった劣化した我が国の体質をいかに根幹から改善するか。それがやっぱり小学校における国語こそがその本質であると藤原先生はおっしゃっています。国家の浮沈、小諸市の浮沈は小学校の国語にかかっているという、大それた形になってしましますが、そのくらい重要ではないかと私も捉えているということで見たいと思います。今、教育界で、いろいろ問題視されているいじめの問題であったり、不登校の問題であったり、心豊かに生きるという部分は、それが培われてきた教育をされているかが非常に重要で、それを培うためには、国語教育、特に幼少期からの読書が必要だということをこの先生はおっしゃっておられます。小諸市の図書館は、小諸市図書館もそうですし、学校の図書館も非常に充実しています。本当にいつも感謝しているのですが、大栄製作所から毎年絵本という形でご寄付をいただいております。大変ありがたいことですし、小諸市の図書館の皆さんも、提案や取り組みなどが充実しています。物、心、両面で応援してくださる方、それからそういう仕組みとしてやっていただける方がいらっしゃいます。新しいことを今から始めようと

いうことではなく、今までも取り組んでいることをもっと意識してやっていくことによって、大人から子供まで自分で考えて行動できるような人たちが育っていくと考えます。子供だけではなく大人も必要だと思っています。全てを自ら体験はできないわけですから。それを補うのは、物語であったり、小説であったり、図鑑であったり、そのあたりを意識していくべきだろうと思います。これから国語教育をしっかりとやっていくことによって、小諸市から東大へ入学者を増やそうということじゃなくて、その方1人1人の市民の皆さんが豊かな人生を歩んでいくための基礎作りだと思っていますので、ぜひその辺をご理解いただければと思います。自らの教育観、教育振興について、ご意見をお願いします。田中委員いかがですか。

(田中委員)

私が一番気にしている点はハード面であり、特に子供の通学の安全です。現状、様々な事情から学校へお子さんを送迎する親御さんも増えてきています。これは時代の流れで仕方ない部分もあるかとは思いますが、自動車と子供の動線を校内ではしっかり切り切って、子供の安全を確保していただきたいです。新しく学校ができる場合は、街の新しい中心地が一つできるようなイメージを持っています。ぜひ周辺道路の安全確保のためにも、インフラ整備もお願いしたいと思っています。最近では治安の悪化などが報道されていますが、防犯カメラ等の設置も、住民の方の合意を含めた上で進められると、より子供たちにとって安全な環境が作れるのではないかと想像しています。

(柳澤委員)

私は自分のことを考えると、学校といえば先生であり、先生の意見はすごく大きく、今の自分は、先生が言ったことの影響を受けています。学力をつけてもらうことももちろん大切ですが、先生からの人間的な意見もすごく大事にしてほしいです。そのためには先生の資質の向上が大事であり、色々な先生の意見もあるけれども、教師集団と言われ方をしますが、先生たちが一丸となるようにすべきであり、学校ごとに動くのではなく、市全体として盛り上げていけたら、子供たちにとっても学校へ行くのが楽しくなるのではないかと思います。

(小泉市長)

毎年、先生の入れ替わりはあるかと思いますが、やっぱり影響力のある先生が、先生方同士でも鍛えていただくことが必要だと思っています。そのあたりについて、矢嶋職務代理はどうお考えですか。

(矢嶋職務代理)

教師そのものに力をつけていくことがすごく大事だと思っていますが、新校におい

ても、小中一貫を掲げています。小中一貫ということで交流があり、関わりを持っていく中で、小学校、中学校でお互いが学び合える状況があると教師としての力がアップしていく、そういう面では小中一貫に期待しています。市町村が自ら考え行動することは大事だと思っていて、主体的に行動できる部分を子供たちに一番学んでほしいと思います。中学の方がどうしても教える内容も多く、点数を取るための暗記をしなければならず、子供が受身になるケースがどうしても多くなってしまいます。また、先生方が自分の教育的な考え方を学べる状況ができれば、すごく効果的であると思っています。

(小泉市長)

学校再編の小中一貫教育の中で必然的に先生方が交流することになるのではないのでしょうか。柳澤委員、先生の集団について、理想などはありますか。

(柳澤委員)

小中一貫のスタイルになって、先生が孤立しない形が良いと思います。先生が色々な先生と関わっていくことは大事だと思います。新校がどこにできるかによって、先生の数が減ってしまうことになると、逆効果になりますので、十分注意していかねばならないと思います。

(小泉市長)

ありがとうございます。先生は親からの注文も非常に多く、教育の中味も変わってきているので、先生方が孤立しないことは重要だと思いますし、先生が抱え込んでしまい、せっかく力を持ったにもかかわらず発揮できないことにならないよう、提案のあった集団みたいな形になると、お互いが足りないところをサポートできるのではないのでしょうか。通学の安全、子供たちの安心安全という部分では、変質者など非常に大変になってきていますし、昔と比べると送り迎えが増えており、防犯カメラ等も考えてくのは時代の流れとして必要な部分であると思います。それでは、矢嶋職務代理の教育観について、ご意見いただきたいと思っています。

(矢嶋職務代理)

小諸市教育の中で、教師に力を付けるということが特に重要であると思っています。以前から梅花教育を進めていただいて、教師の力をつけることに重きを置いていただき、研修会を開いて、学校の中で研究を進めるといったことが主体的にできるようになっています。他市町村の学校の場合ですと、ある先生に「研修に行ってください」と伝えてもあまりいい反応がありませんが、小諸の場合ですと、先生方から「この研

修に行かせてもらいたい」と名乗り出てきます。とても主体的にできているということで、そういう良さをぜひ新校にも生かしていければいいと思っています。

(小泉市長)

ありがとうございます。学校再編が義務教育の大きな転換期であると思っています。教育長も変わり、小諸市の将来に向かって新しく進んでいっているように感じています。次に塩川委員をお願いします。

(塩川委員)

今日はありがとうございます。教育委員は今年で10年目になります。元々製造業の経営をしておりますけれど、全く関係ない教育の現場に来て、いろいろ新しい発見だとか、考えさせられることがたくさんありました。まずは、子供たちが楽しく学校へ行き、毎日友達と楽しく学ぶことが大切なのかと思います。小諸は、不登校、それから長期欠席と呼ばれる子供たちが非常に多い現状にあります。また最近、ネグレクト、育児放棄、生活困窮者と言われる方々が増えてきて、子供たちがこのコロナの中において、いろいろな状況で振り回されていて、子供が本当に不幸な目に合っているということを、間近に感じられるような状況です。それから最近では、性的マイノリティの方々の問題が、小学校・中学校でも起こっています。高校ではもうだいぶ前から騒がれていますが、小学校でもそういったことを正しく教えることができる学校環境にしなければいけないと思います。また、ネグレクトはかなり深刻であり、先日も支援センターに伺ったときも、家庭で子供が1人でも食事を作れるよう、目玉焼きの作り方を教えていました。子供たちへのコロナの影響というのはとても大きくなり始め、ここ2年、3年非常に我慢する日々が続いております。子供たちにとっても、友達と遊びに行けない、外出できない、旅行に行けないなど、ストレスが溜まっており、それが学校で荒れてしまう原因になっているようにも感じます。荒れている子は、昔の不良のように派手な見た目ではなく、一見わからない場合が多いです。そういったところで教育委員会として手を入れられるようにしたいです。支援センターへ行くと小学校の低学年の子がたまにいますが、低学年なんていうのは本当に学校が楽しくてしょうがない時期のはずが、1人で支援センターの端っこの方でじっとしているのを見ると、大人として何かできないかといつも思います。子供たちが学校へ行きたいと思えることができ、先ほど市長が言われた国語教育を実現できるような小学校を作って、みんなで小諸市を盛り上げていければと思っていますので、引き続きよろしく願いいたします。

(小泉市長)

ありがとうございました。特に低学年の子供達であれば、楽しいから学校へ行く、

それだけでいいようにも感じます。それからもう一つ、やはり不登校とか長期欠席ネグレクトの問題、LGBTの問題、少数のそういう子供たちにもしっかり目を向けることが大事であると思いました。委員の方から何かご意見はありますか。田中委員いかがですか。

(田中委員)

不登校については、初めて数字を見たときには驚きました。その反面、まだ学校に通ってくれる可能性がある子もたくさんいるように思います。そこに携わっている支援センターの方たちなど、本当に親身に対応して下さっている方の姿を見て、自分も委員として頑張らなければいけないと感じました。みんなでこういうが問題あるというのを共有して、取り組んでいけたらいいと思います。

(小泉市長)

ありがとうございます。支援センターがあり、そこに先生方がいるという仕組みを保護者の方々にしっかり周知していくことも大事だと感じました。塩川委員ご意見ありますか。

(塩川委員)

親が孤立していくとネグレクトなどが加速してしまうので、地域の皆さん、特に民生児童委員の方など、地域には世話役の方がたくさんいらっしゃると思いますので、子供たちやその親も含めて見守ってもらうのがいいのではないのでしょうか。学校の先生は、2、3年で変わってしまうと思いますし、地域で困っている家族を支えていけるような仕組みを作るべきだと考えます。それは教育委員会だけではできないので、ぜひ市役所の中で横断して、みんなが協力していけるような体制を作っていただければと思います。

(小泉市長)

ありがとうございます。住みやすいまちであり、市民の皆さんが生き生きと生きられるためには、何もその人だけが充実していればいいのではなく、その地域のコミュニティがしっかりコミュニケーションが取れ、適度な距離を保ちながらも、「最近なんか顔色悪いけど大丈夫だろうか」など、地域での気づきが大事なのかもしれません。山下教育長お願いします。

(山下教育長)

学校再編については、教育委員会もチームとして取り組んでいきたいと思います。有名な教えて「同事」という言葉があり、自分にも他にも同じ心いるべきであり、相

手の思いを感じ取れる、同じ立場に立つことのできる人間であるということが重要であるという教えです。児童、生徒、先生、迷い苦しんでいる方たちの立場に、みんなが立たなければいけないと改めて思うようになりました。そして、子供たちには、右に向けと言え右に向くような子には育てて欲しくないの、問題行動があるからといって、叱りつけるだけでは駄目ですし、罰を与えることで何とかなるものではないと考えています。教員の方々には、相手の立場に立ち、子供たちと触れ合い、そして保護者と地域の方たちとも大いに触れ合ってもらって、みんなでその子供たちを前向きに育てていくべきだと思っています。

(小泉市長)

ありがとうございます。何か質問とかご意見とかありますか。柳澤委員どうでしょうか。

(柳沢委員)

山下教育長のおっしゃる通りだと思います。先生もいろいろな子供や保護者の立場になるって非常に難しいと思いますが、そういう心構えで接することは大変すばらしいことであると思います。

(小泉市長)

ありがとうございます。塩川委員どうですか。教育観の他、新校に対する期待感でもいいですので、何かあればお話いただければと思います。

(塩川委員)

先ほど教育委員会の中でも新校について、みんなで話し合いをしておりました。今から考え始めてもお金の面など、色々な難しい問題を解決すると数年間、本当に長いスパンがかかってしまいます。そこからまだ先60年、70年その学校は続くわけなので、安物買いの銭失いじゃないですけど、中途半端なものを造るのではなく、どうせ造るのだったらいいものを造って、子供たちに渡してあげたいと思っています。それから、これから対面で市民との説明会が始まりますが、皆さんにご理解をいただいた上で、本当にいいものを造っていただきたいと思います。そこには今のクラスの1クラスの人数は30人とか35人と言われていますが、今のようなコロナの状況ですともう少し少なくともいいのかなという気もします。あと学校設備について、抗菌だとか除菌に対応している設備、そういったものを考えていくと、また建設に関する金額が上がってしまうということになるかと思います。しかし、60年、70年先を考えると、今は苦しくても、長い目で見たときには、この小諸市の人口を増やしたり、学校へ行けなかった子供が行けるようになったり、新しい学校ができることでリセットもでき

て、子供たちも通いやすくなるといったことがあるかと思います。7年、8年ぐらい前から、学校の地区については検討してまいりましたが、時間をかければいいということでもありませんので、スピード感を持って、より良いものを子供たちに使ってもらえるようにしていきたいと思います。それから、本当に子供の立場に立って、また先生の立場に立って進めていくためには、学校の状況を見ながら進めるべきだと思います。それぞれの立場に立った目線で、自分たちが置かれている立場で職務を遂行していきたいと思います。教育長が言われた通りですが、それに従ってわれわれ教育委員は動いてまいりたいと思いますのでよろしくお願いします。

(小泉市長)

ありがとうございます。塩川委員のおっしゃったことはすごく大事なことだと思います。最近の話ですが、ここ5年ほどは小諸市に移住してくれる人たちも非常に多く、具体的な例で言いますと、1月に民間の会社が住宅地を造成したのですが、売れ行きがとても好調で、また、地元の方は1人しかおらず、あとは皆市外の方と聞いています。この流れが続けば良いと考えています。軽井沢町で言えば風越学園がありますが、やはり子供の教育のために移住してくる方がいます。佐久穂町の大日向小学校も同様かと思います。小諸市が小中一貫を公立学校として明確に打ち出していくことも必要でしょうし、他の自治体よりも際立ったものが必要であると考えています。また、小諸の教育において、英語教育については蓄積があります。それから、いじめや不登校の問題も真剣に取り組んできています。幼児の教育についても運動遊びなど、色々な形でやってきており、学校給食も特色があります。そういったことを明確なメッセージを持って、市民の皆さんへも、将来市民になる可能性のある人たちへも発信していくことが必要であると思っています。

(2) 学校の現状について

(小泉市長)

それでは、(2)学校の現状について、事務局から説明していただきます。

(事務局)

【資料：「令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の考察」に沿って説明】

(事務局)

教育支援センターの所長から、1年間の総括としてご意見をいただいておりますのでお伝えいたします。令和3年度の特徴につきましては、3点あります。1つ目は、保護者あるいは家庭環境の不安定さが諸課題の原因なのではないかということです。そ

れぞれの児童生徒の家庭環境や保護者の成育歴にも踏み込まないと解決に至らない、児童生徒の理解が十分にできていないと対応はなかなかできない、それに加えて保護者に対しての理解が大変重要である、ということでございます。2つ目は、学校へ通えるようになることが不登校の解消ではないというご意見をいただきました。学校に通えていなかったという事実は本人が一生持って生きていかなければならず、不登校だったということはそうした状況になった人物でしかわからないですし、苦しきも、悔しきも、切なきも、いかんともしがたい無力感も、否応なく迫りくる罪悪感も、不登校になったという空気感をまとめて過ごさなければならなかったことが思い出として残ります。学校の先生方に関しましては、学校だけが成長の場ではないということ、また、児童生徒の強い味方であり、あなたにはあなたの道があるというメッセージを常に子ども達へ発信してほしいということです。3つ目は、教師の人間力です。義務教育である小中学校が、その子1人1人の生きる力の基盤を、土台を作る場であり、作る時期です。学校の職員は様々な児童生徒への確な対応力を身につけなければならず、力を身につけるべく研修を重ねていく必要があるということです。説明については以上です。

(小泉市長)

何かご意見ありますでしょうか。矢嶋職務代理いかがですか。

(矢嶋職務代理)

先ほど教育長が説明された「同事」と関連しまして、不登校等の子供たちはこれだけ大勢いるのですが、塩川委員が支援センターへ行った時に不登校の1年生が居てかわいそうで何とかしてあげたいとおっしゃっていました。それがまさしく「同事」ではないかと思います。全部の先生がそうではないのですが、来ていない子供たちに対して、怠けだとか、さぼりだとか、そういう思いで先生が接してしまう場合があります。だけどそれでは解決していきませんし、そういうお子さんに対して、支援センターと一緒に見に行ったりすることも対応の1つとしてあるかと思います。そういう担任の対応のもとで、子供たちは救われる場合もあるのではないのでしょうか。教師の力をつけていくという点について、特別な力をつける必要があるのではなく、そういったことを意識することで少しずつ変わっていくのではないかと思います。

(小泉市長)

ありがとうございます。他にいかがですか。

(意見なし)

(小泉市長)

目指す新校のあり方については、話し合いが今後されていくと思いますし、これから現場に足を運んで、現場を見ることが大事であると感じています。不登校の問題への対応についても、現場を知ることが重要であると考えています。

(3) その他

(小泉市長)

その他、委員の皆様、事務局、何かございますか。

(特になし)

4. 閉会

(事務局)